きしました。

れまでの経歴と仕事への思いをお聞 取締役を務めている井上肇さんに、こ 旭紙工株式会社の生産管理本部で

受注した案件の管理、商品の入出

工場は完成したのでしょうか。

下に恵まれたと思いましたね。

の間は、部下たちにも苦労をかけたと まで本務から離れていたんですよ。そ ミッションを受け、2019年初頭 ています。社長から新工場の設立の はありますが、部員たちのマネジメン ネージャーを務めており、まだまだで を行っている部門です。私はそこでマ 通り生産にまつわる全ての管理業務 荷の管理、業務委託の管理と、名前の

トに励んでいます。

ただ、最近は部外の業務にも関わっ

思っています。 流れや機械のレイアウトなどを調整 る箇所もあるので、これからは仕事の ました。稼働させたばかりで問題のあ の配置なども決まり、おおむね完成し し、さらに効率化を進めていきたいと はい。2019年1月末には機械

やってくれていたので、本当にいい部 思いますが、私がいなくともきちんと

印刷を支え加工を活かす

着手したいことは。 生産管理部門のトップとして、

専務は「見て覚えろ」というスタンス

用と育成に注力してくれていますの しでも作業員の負担を軽減していき るので、機械を新しくすることで、少 なり古い機械が今もまだ使われてい で、生産管理本部としては機械のアッ したいです。今、総務部の人たちが採 人材が不足している状況を何とか ードをしていきたいですね。か

たいです。

ざいますか。 思い出に残っている仕事はご

折り部門の仕事が思い出に残って

中で、私は専務の後継者として色々と 仕事を教わっていま います。当時はまだ住吉専務がご在職 した。とはいえ、

◀新工場1階 before

> 技術を盗んだと言う方がしっくりき の方だったんで、どちらかというと、 専務は人をほとんど褒めることが

ですね。 屈な人間なもので「謝りたくない」と る。ここまで育ってくれて、頼りにし 中綴じの後継者は井上だと思ってい 上げる際には、「自分としては、折りと 減っていきました。中綴じ部門を立ち つ専務からお小言をいただくことも に仕事を進めていったら、ちょっとず タイプではなかったので、最初の頃は に信用してもらえました。嬉しかった ている」とお声がけいただけるくらい いう気持ちが強くて、失敗しないよう いつも怒られていましたね。でも、偏 でした。特に私は何でも器用にできる なく、仕事についてはとても厳しい人

-反対に、何か挫折経験はござい

にご迷惑をおかけしてしまったこと ていたものの、「部長にも確認しても があります。どこか引っかかりを覚え ね。品質の許容範囲を見誤り、お客様 それも、折り部門のときのことです

after

た。 経験値のなさに、情けなさを覚えまし す。ひどく後悔しましたね。判断力や た結果、問題が起きてしまったんで らったし、大丈夫だろう」と高を括っ

さまざまな経験を通じ、大切

とはございましたか。 その経験から、何か学ばれたこ

思いましたね。 ものを作らなければいけないと、強く のですが、「大丈夫だ」と自信が持てる 品質の基準を委ねている部分もある ていきます。だから、お客様の判断に 確認していただきながら、作業を進め 折りの仕事では、基本的にお客様に

今後の目標を教えてください

働いてよかったな」と思ってもらいた 皆さんには、退職するときに「ここで 会社の同僚になったのだから、社員の なりますが、この広い世の中で、偶然 ています。幸せの定義は人によって異 そうには言えないのですが、「みんな 一緒に幸せになっていきたい」と思っ あり、それを打破できていない私が偉 現在、旭紙工はかなり厳しい状況に

企業情報

◆創立年:1983年1月

商:15億円

※創業:1963年

◆従業員数:200人

※ 2018 年 12 月実績

走り続けます ら、きっとその目標を達成できなことを学んできた井上さんな ることでしょう。これからも井 上さんは、社員の幸せのために

▲2016年ドルッパ展示会にて

ださい。 今のお仕事について教えてく

The FOCUS

新工場 断裁部門 編





業務内容

断裁業務を行っています。印刷物のうちいらない部分を切り取り、製品をきれいに仕上げる仕事です。断裁は最初の工程でありながら一度刃をおろしてしまうとやり直すことが出来ない仕事なので、全体の工程を把握しつつ効率的に仕事をすることが求められます。現場で一緒に働く仲間にもその部分を徹底して教えるように意識していますが、丁寧かつ効率的に作業することの難しさは常に感じているところですね。

職場自慢

メンバー全員が一生懸命仕事に取り組んでくれるので活気 あふれる職場かなと思います。部門は現在 12 名で運営して いて、お互いに言いたいことが言い合える環境ですね。仕事 終わりにご飯に行くこともあり、コミュニケーションがしっ かり取れている点が強みです。





工夫していること

月に一回、部門ミーティングを開いています。それぞれが日々感じていることや改善できる点などを共有して業務がスムーズに行えるように工夫しています。具体的にはクレーム内容の共有やそれに対する改善策の提示、さらに日頃の業務内容のやり方について確認をしています。



断裁部門

丸山さんご自身について

■責任者になっての所感

現在責任者となって二年目なのですが、まさか自分がなれるとは思ってもいませんでした。辞令をいただいたときも少しドラマチックで、「明日から責任者や!」と前日に言われました(笑)。嬉しいというよりも驚きのほうが大きかったですね。もともと周りを見ることが得意ではなかったのですが、一方でやってみたいという思いもあり複雑な気持ちだったというのが正直なところです。

■責任者として指導時に心がけていること

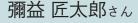
基本的には分からないことを教えるということになりますので、丁寧に分かりやすく教えるということを意識しています。 口で伝えるだけではなかなか難しい部分もあるので、想像しやすいように作業の工程を伝えるなどの工夫をしています。

一番はミスをしてほしくないということです。断裁のミス は取り返しがつかないため、一回のミスが次の工程に大きな 影響を与えてしまいます。その点を意識して作業にあたってもらえればと思います。また断裁業務は自分のスピードで作業を行うことが出来ます。一時間に一回でも多く断裁の作業をしていただければ達成できる仕事量は多くなるので、効率的に作業することを念頭に置いて取り組んでもらえたら嬉しいですね。

■仕事のこだわり

誰よりも良いものを作ろうという意識で業務に取り組んでいます。どれだけきれいに切れたか、どれだけ早く切れたかという部分がやりがいにつながっていますし、「この人が切ったからやりやすい」といってもらえるような仕事ができればなと思っています。

自分が率先して現場に入り、リーダーとして目標とされる 存在になりたいですね。





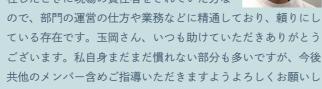
断裁部門

ます。

入社六年目で、今後の成長を期待している 社員の一人です。まだまだ教えてもらう側で 勉強中なのですが、これから人を教えていく

立場になってもらえると全体の作業効率も上がりますし、部門も活気づくのではないかなと思います。真面目でシャイな性格ですが一生懸命仕事に取り組む姿勢が非常に素晴らしいなと思っています。彌益くん、なにか目標を見つけ、今後部門を支える存在になってください!

ベテランの社員さんで、夜勤のリーダーと して非常に信頼をおいている方です。私が入 社したときに現場の責任者をされていた方な









玉岡 和範さん